



# 平成時代の総点検

ローゼンアクションプラン2017の二  
年目となる平成30年度は、元号の変更が  
予定されていることから平成時代の締め

くくりの年度となります。社会福祉施  
設は運営から経営へ、行政処分としての  
処遇から契約に伴うサービス提供へと様  
変わりし、利用者へのサービスは劇的に  
変わった平成時代。品質向上への取り組  
み、苦情解決、権利擁護、虐待防止、ユニ  
ツケア、ホテルコスト、科学的介護、そし  
て近年では介護人材不足から以前では  
考えられなかった外国人介護士の採用が  
進むとともに、介護ロボット、ICT化、  
AIなどが導入されるなど福祉、介護を  
取り巻く環境は我々の予想をはるかに超  
えるレベルとなりました。

そこで平成30年度は、「平成時代の総  
点検」と題して、中期経営計画や現在  
行っている事業の全てを洗いざらい見直  
し、次代へ繋げる取り組みに重点を置く  
こととします。バランス良くミッション&マ

ネジメントを実現し、しっかりと結果を  
出す年度としてまいります。

第一に過度な事業展開、日々の財務管  
理の不徹底などにより、法人の財務状況  
は逼迫していることから、法人が健全な  
財務体質となることを最重要課題とし  
て位置づけ、細部にわたって生産性の向  
上に繋げ、各事業の独立採算性を高めら  
れるよう改革を推進します。

第二に人口減少社会時代において生産  
人口が0.9%ずつ減少していく中で今まで  
以上に福祉業界の人材確保は極めて困  
難になることから、ダイバーシティ時代に  
見合う採用戦略に沿って、ユニークな採用  
面接の実施、人が採用しやすいシフト作  
りなど働く者の満足度を高める取り組  
みを実現します。

第三にローゼン(熱)プロジェクトをさら  
に強化し、魅力ある施設を目指し、次代  
への希望が持てるようリノベーションを図  
ります。

第四に医療、介護、障害のトリプル改  
定により、サービスの全面見直しが求め  
られます。サービス提供体制の見直しを  
行い、特に日中活動におけるアクティビ  
ティを強化し、「利用者の豊かな日常を  
演出してまいります。

第五に地域共生社会の形成に向けて、  
障害、高齢、保育各事業の共生型サービ  
スの再構築を目指し、制度・分野ごとの  
「縦割り」や「支え手・受け手」という  
関係を超えて複数種別を経営する法人  
としての強みを活かします。

第六に「考える組織」への変革を掲げ、  
役員全てが既成概念にとられず、次  
代へ繋がる改善に日々取り組み、平成時  
代の総点検を実践いたします。

第七に人材育成目標「1人ひとりの成長  
はローゼンの成長、そして地域の成長、社  
会の成長」を掲げ、職員が自発的に成長  
できる組織を目指します。



社会福祉法人  
千葉県福祉援護会

理事長 武石 直人

平成30年度も皆様方から求められる  
高品質のサービスが持続可能な事業とし  
てお届けできるよう既存事業を精査し  
ながら、たゆまぬ改善と経営体質の強化  
を継続しつつ、「援護会らしさ」を波及し  
て新たな成長軌道を目指し、経営理念  
である「私たちは地域社会になくてはな  
らない存在でありたい」の実現に向けて  
邁進してまいります。今後とも一層のご  
理解を賜りますようお願いいたします。

昨年の制度改正において執行役員制を  
導入していましたが、法人本部会計  
の負担が増えるので、施設長を兼任す  
ることといたしました。

武石直人(特別養護老人ホームローゼ  
ンヴィラはま野施設長)、

花野井浩一(サービス付高齢者向け住  
宅ローゼンホーム上山ホーム長)